

鎌倉彫は鎌倉市周辺で作られている漆器です。

鎌倉時代を起原として800年前に中国から伝来した木彫漆塗りで
禪宗寺院（鎌倉五山）の仏具や調度品を唐風に仕上げたことに始まります。

江戸時代には仏具としての鎌倉彫から日用品（茶道具）唐物風の
彫り物だけではなく日本独自のデザインが確立されていきます。

明治時代になり明治政府が掲げた神仏分離令が公布され仏師たちは
仕事を失いました。残った仏師のなかで仏像彫刻から鎌倉彫に技術を
活かし発展させて行ったのが 後藤 齋宮（ごとう いつき）と
三橋 鎌山（みつはし けんざん）の2人です。

明治22年横須賀線の開通とともに鎌倉彫は別荘地として栄え
訪れる人々への日用品やお土産として（茶托 手鏡 銘々皿 丸盆
長手盆 懐石盆）作られるようになった。

昭和54年 経済産業省から伝統的工芸品として認定を受けました

鎌倉彫の木地は昔 ヒノキ イチョウ ホオノキ が使われていま
したが 今はほとんど北海道のカツラ材（半年以上乾燥）を使っ
ています。カツラはやわらかく彫刻しやすいこと 大木で幅の広い材が
得られること くるいや割れが少ないことなどから鎌倉彫に適した
木材といえます。

彫刻刀には小刀（こがたな）平刀（ひらとう）丸刀（がんとう）等
があり図案や彫り方の違いによって使い分けます。

砥石には 荒砥 中砥 仕上用があります。

彫りは木地に絵付けして木彫りの順に

塗りは 乾口塗（ひくちぬり）があり生地固め 下地付け 中塗
上塗と何層にも天然漆を塗り重ねる 仕上げに マコモというイネ科
の植物の粉を蒔き最後につや出しのウルシを塗る。

平成 16 年 10 月 鎌倉彫会館基礎科教室 74 期 3 年課程 入学
 1 年目 花台 (亀甲文) 7 回 花鳥文盆 4 回 菊桐手鏡 5 回
 630 8400 1890 14070 1,365 14070
 示現寺椿文平皿 5 回 薬師寺葡萄額板 8 回 牡丹文茶托 6 回
 2100 13545 3500 13020 4305 34524
 2 年目 三橋竹文八角盆 7 回 後藤菊文長方盆 10 回 創作盆 5 回
 3570 16222 3850 23625 3780 34335
 薄肉牡丹文額板 8 回 俱利文鉢 8 回
 1890 11917 7100 25725
 3 年目 南禅寺牡丹文丸額 10 回 中尊寺宝相華文手鏡 10 回
 4000 25672 1700 20370
 円覚寺天竺牡丹文額板 12 回
 4000 16117

平成 17 年 10 月 初伝

平成 18 年 10 月 中伝

平成 19 年 9 月 奥伝 雅号 武橋

基礎科教室 終了

鎌倉彫一陽会 鎌倉彫会館 野尻教室

平成 21 年 10 月 別伝位

平成 20 年 4 月 第 8 回 港友会会員作品展 横浜市民ギャラリー
 三猿長方額 南禅寺牡丹文丸額

平成 22 年 2 月 第 9 回 港友会創立 50 周年記念
 港友会会員作品展 横浜市民ギャラリー
 中尊寺宝相華文手鏡 盛鉢

平成 22 年 4 月 30 日～5 月 3 日 第 41 回鎌倉彫教授会創作展
 課題作品 「長方はこ」 桐の葉づくし

平成 24 年 2 月 第 10 回 港友会会員作品展 横浜市民ギャラリー
 あじさい文丸盆 椿文四方盆

令和 2 年 6 月 鎌倉彫会館水曜教室

鎌倉彫一陽会〔公平 蘭山〕